

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 恵那特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月14日(月) 9:00～11:00
- 3 開催場所 知新会館(恵那特別支援学校隣接)
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者

会長	三尾 武久	本校PTA会長
副会長	渡邊 康正	明知鉄道株式会社(代表取締役 専務) 欠席
委員	伊藤 吉三	千代田電子工業株式会社(工場長)
	齋藤 寿久	特定非営利活動法人くわのみ放課後等デイサービス 日中一時支援事業 りんごクラブ(管理者)
	佐藤 容子	一般社団法人ふれあい処和 デイサービスほん和家(管理者)
	鈴木 隆一	地域住民(NPO法人いわむら一斎塾)
	鈴村 由香	障害者地域支援センター 結
	長谷川則子	認定NPO法人 かがやきキッズクラブ (理事長 施設管理者)
	吉村 綾子	地域住民 欠席
学校側	山内久美子	校長
	三島 祥江	教頭
	大野 和司	事務長
	西藤 薫	小学部主事
	藤井 智子	中学部主事
	鬼頭 克好	高等部主事
	久保 恭子	教務主任

5 会議の概要(協議事項)

(1) 協議について

学 校：協議のテーマ・協議の進め方について

各学部 of 取組について

学校アンケート(保護者)の結果について

(2) グループ協議(1グループ)

意見1：親元を離れて宿泊する体験は貴重である。小学部児童が地域の民宿を利用して宿泊学習を行ったことは、地域とのかかわりをもつことにもつながり有意義である。

意見2：岩村町には地域資源が豊富にあるが、コロナ禍で児童生徒が校外へ出掛け施設を利用したり地域の人と交流したりすることに制限がある。児童生徒が出掛けられないならば地域住民を講師とした学習活動の機会を増やせるとよい。

意見3：他校では、学習活動の支援者として地域の人にサポーター登録をしてもらっている例があ

る。

意見4：岩村地域には、地域の人が講師として行う体験プログラム「いわむら五っこ」がある。学校も活用するとよい。

意見5：学校のある岩村町でのさまざまな体験を通して地域に愛着をもつことは、児童生徒の居住している地域での生活においても生きてくる。卒業後、地元に戻ってどのような活動ができるかが課題となる。

意見6：児童生徒が社会の役に立ちたいと思えるような活動を設定することが課題である。

意見7：学校でどのような活動を行っているのか保護者や地域住民に十分伝わっていない。

意見8：岩村地域への情報発信は、広報いわむら「ホットいわむらだより」が有効である。

意見9：学校がある岩村地域だけでなく、児童生徒が居住している地域に学校からの情報発信をしていくことも必要である。

(3) 2 グループ

意見1：放課後等デイサービスに通う本校の生徒について、挨拶がしっかりできるようになり、マナーに関する力が付いてきていると感じた。早い段階から、適切なマナーを身に付ける学習に取り組んでほしい。

意見2：学校卒業後、必要となるのは作業能力よりも挨拶がしっかりできることや、困ったときに相談できる力、仕事を休まずに続けられる力である。作業に関するスキルのことよりもこうした力を育てていくことも必要である。

意見3：電車に乗ることができれば、駅までの送迎がある事業所へ通うことができ、進路先の選択肢が広がる。スクールバスや放課後等デイサービスの利用で、公共交通機関を使う機会が少ない生徒もいるが、学校在籍中から将来に見通しをもって取り組んでほしい。

意見4：学校の授業ではおおよそ1時間ごとに休憩が入るが、一般の企業では2時間ごとに休憩が入るところもある。将来を見据えてある程度の時間、活動を持続できる力を養うことにも取り組んでほしい。

意見5：学校の取組状況を聞き、地域資源の活用は十分されている印象を受ける。

意見6：学校の活動を手伝いたいと思っても、どう協力ができるのか分からない人が地域に存在する。そのような人たちと、どのようにつながりをもち学校の取組に参加してもらうかが課題である。

意見7：地域の人にとって学校が身近に感じられるための情報発信が必要である。

6 会議のまとめ

- ・児童生徒の卒業後の生活を見据えた指導目標や教育内容の設定について課題を得た。
- ・地域資源・人材活用のための具体的な提案を得られた。
- ・地域や保護者への情報発信の必要性と、その方法について課題を得た。
- ・学校に協力したいとの思いをもつ地域の人たちの存在を改めて知ることができた。
- ・本会議で得られた課題や具体的な提案について、すぐに取り組めること、引き続き協議が必要なこと、時間をかけて実現していくことに整理し、実現可能なところから取組を進めたい。